

張 雯怡

ZHANG Wenyi



妊娠羊·私

銅、ビニール

妊娠羊・私

「私は、ぼんやりとした感覚で自分が羊のようだと感じています。繁殖の時期になると、飼育者の促しで羊の分娩エリアに駆けつけ、出産を待つような状況です」

私は血縁関係をはじめとして、コミュニティーとアイデンティティの関係性について作品を制作研究している。私達は独立した一人の人として社会生活の中で身分の複層性を持っている。誰もが運命の下にある誰かの娘か息子になり、血縁関係から家族の身分を得ている。社会や家族の影響を振り振り切って、「個人」と「血縁」を受け継ぐ身分の間の様々な関係を議論し、芸術として表現したいと思う。私の作品は母と娘の関係について議論している。それぞれの作品には、現段階での私の姿勢や考え方が表現されている。

私が30代にさしかかった頃、母は「私を産んだ者」としての権威を行使し、私に出産を促した。その時の私は、分娩エリアで出産を待つ羊のようだった。誰も私が私自身であることに関心を持っていないようで、最も親しい母親ですら、この時期に私は単なる妊娠・出産を必要とする存在だと感じているようだ。

銅を使って妊婦のお腹と思われるものを作った。銅の視覚的な硬さは、妊娠期によってもたらされる一種の受動的なアイデンティティの再構築のように感じられる。私は「娘」というアイデンティティから「私自身」というアイデンティティに困難な過渡を経て移行しましたが、妊娠の必要性によって再び「誰かの母親」というアイデンティティに強制的に変わる。それは責任ではなく、むしろ拘束のように見える。分娩エリアに閉じ込められ、他人の「慶び」を受け入れる状況だ。

「個人」の迷いや宿命感を、芸術では材質選択や造型などによって表現し、逃げられない血の繋がりと、個人の自立として作品に託したい。様々な材料による創作の試みを行い、素材間に生じた芸術効果を確認し、鑑賞者との視覚的な対話に適した芸術的手段を見つけるのである。